

調査研究報告書の活用に関するアンケート結果報告

当調査会は、毎年度、複数の調査研究報告書を作成し、多摩・島しょ地域市町村等に配布するとともに、ホームページ上 (<https://www.tama-100.or.jp>) でも広く公開しています。

各自治体の現場において、どのように報告書をご活用いただいているのか把握するため、5月から6月にかけて多摩・島しょ地域の39市町村を対象としたアンケートを実施しました。

<多くの市町村にご活用いただいています>

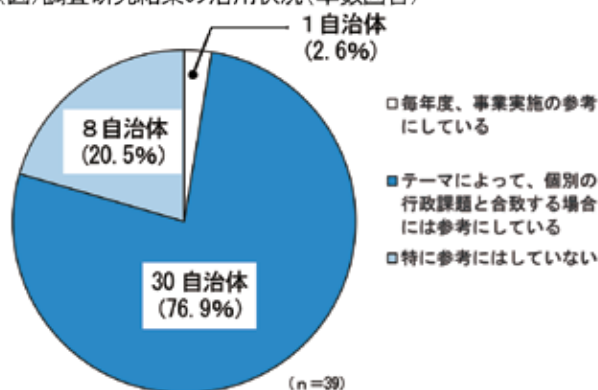
アンケートの結果、30自治体 (76.9%) から「調査研究のテーマが市町村の行政課題に合致する場合には参考にしている。」とご回答をいただきました。(図参照)

また、2019年度の市町村事業の実施に当たっては、当調査会が過年度取りまとめた『基礎自治体におけるAI・RPA活用に関する調査研究報告書』を「導入及び実証実験の参考として活用した」というご回答をはじめ、他の調査研究結果も「事業実施に当たっての参考として活用している」とのご回答をいただいています。

各調査研究では、市町村が事業に取り組まれる際にご参考にしていただけるよう、多摩・島しょ地域の自治体にアンケートを行い、地域の実態について明らかにするとともに、取組のポイントとなる点を先進自治体や有識者から伺い、取組の方向性をお示しするなど、多くの情報を掲載しています。

調査研究内容は、過年度のものも含めて当調査会ホームページに掲載しています。是非、ご参照いただき、各市町村の取組にご活用いただきたいと存じます。当調査会といたしましても、引き続き調査研究内容の充実に努めてまいります。

(図) 調査研究結果の活用状況(単数回答)



編集後記

『妖怪』と言えば、何かしらの『妖怪』が頭に思い浮かぶ人は多いと思います。そのため、調布市・境港市・遠野市等、『妖怪』を観光資源としている自治体も多くみられます。それでは、そもそも『妖怪』とは一体何なのでしょう。とある『妖怪』が出てくるアニメーションで、陰陽師が「朽ちた壁」、「単なる布」、「砂をまき散らすつむじ風」、「かぼちゃ」等と説明することで、『妖怪』が存在できなくなるというお話がありました。一説には、その昔、よくわからない不思議な現象・事象を『妖怪』の仕業として理解していたとも言われています。

当調査会では、「シェアリングエコノミー」、「SDGs」、「SIB」等、自治体においてよくわからない、不思議な内容について調査・研究をしています。「自治体には不思議な事など何もない」となるように、今後も調査・研究に努めてまいります。残念ながら、筆者としては「自治体には不思議でない事などない」としか言えませんが…。(H.K)

発行 公益財団法人 東京市町村自治調査会
〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館 4階
TEL : 042-382-0068
URL : <https://www.tama-100.or.jp>
責任者 小暮 実

本誌のバックナンバー等をご覧いただけます



再生紙を使用しています